

狂人は笑う

夢野久作

青空文庫

青ネクタイ

「ホホホホホホ……」

だつて可笑しいじやありませんか。

……妾わたしはねえ。失恋の結果世を儂はかなみて、何度も何度も自殺しかけたんですつてさあ。

いいえ。妾は知らないの。そんな事をした記憶おぼえはチツトも無いのよ。初めつから失恋なんかしやしないわ。第一相手がわからないじやないの……ねえ。可笑しいでしょう。ホホホホ……。

それあ変なのよ。女学校を出てからというもの毎日毎日お土蔵くちらの二階の牢屋なげみたいな処に閉じ込められて、一足も外へ出ちやいけないつて云い渡されていたの。何故なぜだかよくわからないけど……おまけに着物も何も取上げられちやつて、妾ほんとうに極きまりが悪かつたわ。着物を引裂いて首を縊くるからですつてさあ。妾はもう情なくて情なくて……。

御飯を持って来てくれるのは乳母ばあやだけなの。お父さんは妾が生れない前にお亡くなりにな

なるし、お母さんも妾をお生みになると直ぐに、どこかへ行っておしまいになったんです。……。ですから妾は、その頃まで独身者で、お金を貸していた叔父おじさんの手に引き取られて、その乳母ばあやのお乳で育つたのよ。それあい乳母ばあやだったの……。

その乳母ばあやが、妾が小さい時に持っていた、可愛らしい裸体はだかのお人形さんを持って来てくれた時の嬉うれしかったこと……。

……まあ。お前は今までどこに隠れていたの。お母様と一緒に遠い処へ行っていたの。よくまあ無事で帰って来てくれたのね……。つてそう云つて頬ほずりをして泣いちゃつたのよ。そうして妾は、それからというもの、毎日毎日来る日も来る日も、そのお人形さんとばかりお話していたの。お母様のことだの、お友達のことだの、先生の事だの……。それあ温おとましい、可愛らしい、お利口な、お人形さんだったのよ。

そうしたらね。そうしたら或る夕方のことよ……。

お土蔵くらの鼠ねずみが、そのお人形さんのお腹を喰い破やぶつちやつたの。そうして中から四角い、小さな新聞紙の切れ端を引き出したのよ。妾がチャンと抱っこしていたのに……ええ。そうなのよ。そのお人形さんのお腹の壊れた処を新聞で貼あつて、その上から丈夫な日本紙で貼あり固めて在あつたの。それが剥はがれて出て来たの。大方おおかた鼠ねずみがその糊おを喰べようと思つて

引き出したのでしよう。可哀そうにねえ。

妾その時ドレ位泣いたか知れやしないわ。そうしてね、余り可哀そうですから、頂き残りの御飯粒で、モト通りに貼つてやりましようと思つた序ついでに、何の気も無しに、その切きれは端の新聞記事を読んでみたらビックリしちゃつたの。妾、今でも暗記してるわ……あんまり口惜しかったから……。

……
 こうなのよ……。

……彼女は遂に発狂して、叔父の家の倉庫の二階に監禁かんきんさるるに到つた。ここに於て彼女を愛していた名探偵青ネクタイ氏は憤然として起たち、この事実の裏面を精探すると、驚くべき真相が暴露ばくろした。すなわち強慾なる彼女の叔父は、彼女の母親の財産を横領せむがため、窃ひそかに彼女の母親を殺して、地下室の壁の中に塗籠ぬりこめたもので、次いでその遺産の相続者たる彼女を不法檻禁して発狂せしめ、法律上の相続不能者たらしめようとしていた確証が発見され、彼女の正気なる事が判明したので、彼女は巨万の富を相続すると同時に、青ネクタイ氏と結婚する事になった。同時に悪にくむべき彼女の叔父は死刑の宣告を受け
 て……。

……つていうのよ。ねえそうでしょう。あのお人形さんは、妾に本当の事を教えに来て

くれた天使だったのよ。ねえ。そうでしょう。妾、その晩、日が暮れると直ぐに、お土蔵くらを脱ぬけ出しちやつたの……。

いいえ。お土蔵くらを脱ぬけ出すくらい何でもなかったのよ。妾あんまり口惜くしかったから、アノお土蔵くらの二階の窓に嵌はまつていた鉄の格子こうしね。あれを両手で捉とまえて力一パイ引ひつぱつてやつたら、まるで飴あめみたいに曲まつてしまつて、窓枠まどわと一緒にボロボロツと抜ぬけて来たのよ。キット鉄てつでなくて、鉛えんか何かだったのでしょう。何なにから何なにまで人を欺だましていたことが、その時に、初めてわかつたわ。妾は口惜くし泣なきしいしい、その窓から飛び降りたのよ。それから人に見付みからないように、お縁側えんがはから這はい上あつて、奥の押入おしりの中に在る長持ながぢと、壁かべの間に挟はまつてジイツじいとしていたの。随分苦くるしかったわ……でも叔父おじは用心用心深こいんですからね。雨戸あまどを閉ふめちやつたら、もうトテモ這は入れいないのよ。そのうちに、やつとの思いおもいで夜よが更ふけて来て、お台所だいじの時計とけいが十二時じふにじを打うつのをチャンと数かずえてから、ソーツと押入おしりを出でて行いつて、叔父おじの蒲団ふとんの下したに隠かくして在あつた白しろ鞆たもとの刀やいばを、中味なまだけソーツと引き抜ひいてしまつたの……叔父おじはいつもそうして寝ねていたんですからね。そうして素すツ裸はだか体のままお酒さけを飲のんで寝ねている憎にくらしい叔父おじの顔かほをメチャメチャに斬きつてやつたの……お母おさんの鬢か敵たき……つて云いつてね。

……それあ怖かったわ。血みどろになった素ツ裸体すばだかの叔父が、死物狂いになって掴みかかって来るんですもの。それをあつちに逃げたり、こつちに外そとしたりしながらヤツトの思いで斬り倒してやったわ。

それから大勢の雇やといにん人が出て来て、妾の事をキチガイだキチガイだって、ワイワイ騒ぎ出したの。妾口惜しかったから思い切つて暴れてやったわ。大きな男が色んな物を持つて向つて来るのを、何人も何人も斬つたり突いたりしてやったけど、大勢にはどうしても敵かまわなかつたの……だつて撃剣の上手なお巡査まわりさんなんか呼んで来て加勢させるんですもの。妾、お床の前の前に追い詰められながら、一生懸命に刀を振りまわして闘つてみたけど、トウトウ刀をタタキ落されちゃつたの。おまけに叔父さんの死骸しかいに引つかかつてドタンと尻餅を突いたお蔭で逃げ損つて、そのお巡査まわりさんに押え付けられてしまったのよ。デモ面白かつたわ。ホホホホホ……。

それから自動車でこの病院に連れて来られると、ここの院長さんが思いがけない親切な方で、トテモトテモ頭のいい方だったのよ。お美味いしい冷水おひやを何杯も何杯も御馳走ごちそうして下さった上に、妾の話をスツカリ聞いて下さつて、色んな事を云つて聞かせて下さつたのよ。……モウ暫くの間キチガイになつた振りをして、この病院に這入つていた方がいいってネ

……そう仰おっしや言いるの……お前の叔父さんはまだ生きていて、青ネクタイ氏と裁判所で争まつて云いっているのだから、その叔父さんの罪状が決定して、監獄に入られるようになったら、その時に病院から出してやる。青ネクタイ氏とも結婚させてやる。それまで辛抱して待つていないと、叔父さんが又ドンナ悪企あくきんみをして、お前の生命いのちを取りに来るか解と解とらない。しかしこの鉄筋コンクリートの室へやに隠かくれていれば、誰も近ちかづく事は出来ないからつてネ……そう云いつて下くだすつたから、妾めかけスツカリ安心あんしんして、ここに隠かくれているのよ。そのうちに青ネクタイ氏が、キツト会いに来て下さると思おもつてネ……楽しみにして待つていたのよ……。そうしたら可笑おかしいの……まあ聞いて頂ちようだい戴だい……この頃ころヤツト気が付ついたの……。

ここの院長ちやうりやうさんこそ名探偵めいたんていの青ネクタイ氏しなのよ。……ホラ御覧ごらんなさい。誰たれだつてビツクリするにきまつているわ。妾めかけだつてオンナジ事ことよ。あんなに頭はげが禿はげていらつしやるのでチツトも気が付つかなかつたのよ。

でもこの頃ころ、窓まどの前まえをお通りになるたんびに青いネクタイを締しめていらつしやるでしよう。新しい……派手はでなダンダラ縞しまの……ネ。ですからもしやそうじゃないかと思おもつて気を付けていたらヤツトわかつたのよ。

妾めかけ、感謝かんしゃしちやつたわ。あんなにまで苦心くしんして、妾めかけを保護ほごして下さるんですもの……。

何故つてあの 禿頭はげあたまは変装なのよ。仮髪かづらなのよ。オホホホホ。可笑しいでしょう。妾はチャンと知っているけど知らん顔をしているの。でも時々可笑しくて仕様がなくなるのよ。

あんな禿頭の人と結婚するのかと思ってね。ホホホホホ。ハハハハハ……。

こんろんちゃ
崑崙茶

婦長さん……看護婦長さん。チョットお願いがあるんです。ちよつと来て下さい。大至急のお願いが……。

あのね……耳を貸して下さい。済みませんが……。

……僕の不眠症の原因がわかったんです。ここへ入院してからというもの、どうしても眠れなかつた原因が……。

僕は飛んでもない呪詛のろいにかかっているのです。イイエ。虚構うそじゃありません。卒業論文なんかに呪詛のろわれて、神経衰弱にかかったんじゃないやありません。別にチャンとした原因があるのです。事実の証拠が眼の前に在るのです。

僕はね……ビツクリしちゃいけませんよ。僕はね。すぐ横のベッドに寝ている支那の留学生ね。アイツに呪詛のろわれているのですよ。あいつに呪詛のろわれて殺されかけているのです。

ですからこの室に居たら到底助かりっこないのです。

エツ……どの支那人かつて……？ ……ホラ……そこに寝ているじゃありませんか。貴女の背後の寝台に……エツ……そんなものは見えないって……？ ……貴女は眼がドウかしているんじゃないですか。……ね。わかったでしょう。あいつですよ。ツイ今しがた先生に注射をしてもらったばかりなんです。ね、グーグー眠っているでしょう。

何ですって……？ ……あの支那人を僕の脅迫観念が生んだ妄想だって云うんですか……？ ……そんな事があるもんですか。チャンとした事実だから云うんです。ね。御覧なさい。死人のように頬ペタを凹まして、白い眼と白い唇を半分開いて……黄色い素焼みたいな皮膚の色をして眠っているでしょう。

僕はその顔色を見てヤツト気が付いたのです。この留学生はキツト支那の奥地で生れたものに違い無い。あの界限で有名な、お茶の中毒患者に違い無いと……。

イイエ。貴女は御存じ無い筈です。

お茶に中毒した人間の皮膚の色は、みんなアンナ風に日暮れ方のような冷たい、黄色い色にかわるのです。光沢がスツカリ無くなってしまふのです。そうして非道い不眠症に罹つて、癩人みたやうになつてしまふのです。

イヤ。それが普通のお茶とは違うのです。

普通のお茶だったら僕なんかイクラ飲んだってビクともするんじゃないやありませんがね。あの留学生が持つている奴はソナ生やさしいもんじゃありません。崑崙茶こんろんちゃといって、一種特別のタンニンを含んだお茶から精製したエキスみたいなものなんです。ですからトテモ口先や筆の先では形容の出来ない、天下無敵のモノスゴイ魅力でもって、タツタ一度で飲んだ奴を中毒させてしまふんです。トツテモ恐ろしい、お茶の中のお茶といつてもいい位な、お茶の中のナンバー・ワンなんです。

その崑崙茶のエキスで作った白い粉末で「茶精」っていう奴をあゝの留学生は、どこかに隠して持つているのです。どこに隠しているかわかりませんが……支那人の中には魔法使まほうしいみたような奴が多いのですからね。……そいつを僕の枕元の鎮静剤ちんせいざいの中に、すこし宛あて粘りね込んでいます。そうして誰にもわからないように、僕の生命いのちを取ろうとしているのです……僕は時々頭から蒲團ふとんを冠かぶる癖くせがありますからね。その隙すきに入れるんだらうと思ふんです……僕が頂いただきいている鎮静剤はステキに苦いでしょう。おまけにプンと臭においがするでしょう。ですから「茶精」が仕込んで在るのが解らないんです。

エッ……そんな悪戯いたづらをする理由ですか。

それあ解り切っているじゃありませんか。貴女はまだ不眠症にかかった事が無いんですね。そうでしょう。……いつもかも、睡ねむくて困る……アハハ……だから不眠症患者の気持がわからないのですよ。

……こうなんです。アイツは僕が先生の注射のお蔭でグーグー眠っているのを見ると、妙に苛いら立たしくなつて、癩しかに障さわつて来るのです。そうして終しまいには殺してしまいたいくらい憎らしくなつて来るんです。

イヤ。そうなんです。これが不眠症患者の特徴なんです。つまり極端なエゴイストになつてしまふんですね。いくら眠ろう眠ろうと思つても、思えば思うほど眠れない事がわかつて来ると、だんだん気違いみたいな気持になつて来るんですよ。……世界中の人間が一人残らず不眠症にかかつて、ウンウン藻も掻かいている真ま中なかで、自分一人がグーグー眠れたらドンナにか愉快だろう……なんかと、そんな事ばかりを、一心に考え詰めている矢や先に、横の方から和なごやかな寢息がスヤスヤ聞えて来たりなんかしたら、最も早うトテモたまらなくなるんです。神経が一遍に冴え返つてしまつて、煮えくり返るほど腹が立つて来んです。聞くまいとしてもその寢息が一つ一つにスヤリスヤリと耳の奥に沁しみ込こんで来る。そのたんびに腹立たしさがジリジリと倍加して行く。しまいにはその寢息の一つ一つが、

極度に残忍な拷問ごうもんか何ぞのように思われて来て、身体からだ中にビツシヨリと生汗なまあせがニジミ出て来るのです。そうして、その寢息ねいきをしている奴を殺すか、自分が自殺するか、二つに一つ……といったような絶体絶命の気持になつて、あつちに寝返り、こつちに寝返りし初めるのです。アイツは僕のために、每晚そんな気持を味わせられているんです。おまけに僕は肥厚性鼻炎ひこうせいびえんなんですから、眠ると夜通しイビキを掻かくでしょう。その上に相手は個人主義一点張りの支那人と来ているんですから、一層たまらない訳でしょう。

ですからアイツはその茶精ちしやうを使って、僕を絶対に眠らせまいとしているのです。そうして僕を次第次第に衰弱じやくじやくさせて、殺して終しまおうと巧たくらんでいるのです。

イヤ。それに違い無いのです。僕は昂こう奮ふんなんかしていません。キットそうなのです。駄目だめです駄目です。僕の空想くうさうなんかじやありません。……この室へやに居ると僕はキット殺ころされます。……どうぞ助けると思つて僕を他の室に……エツ……室むろが満員まんげんなんですつて？ そんなら野天のてんでも構かまいません。どうぞどうぞ後生ごせいですから、僕を別の室に……。

……何ですか。崑崙茶こんろんちやの由来ゆらいですか。……貴女あなたは御存ごぞんじ無いのですか。

へエ。崑崙茶こんろんちやがドンナお茶ちやか見当けんたうが付けば、中毒ちゆうどくを解とくのは何なにでもない。……成程なるほど。植物性じふつせいの昂奮かうふん剤ざいは色々いろいろあるから、話をよく聞いて見ない事ことには見当けんたうの付けようがない。……

…そんなものですかねえ。…そんなら訳はないでしょう。その留学生が持っている「茶精」を取上げて分析してみたなら直ぐに判明わかるでしょう。

…成る程。隠している処がわからないと困る…それもそうですね。キット魔法使いたみたいな奴に違い無いのですからね。…そればかりじゃない。注射で眠っている奴を途中で起すと、利きき残った葉はが身からだ体に害をする…そんなもんですかねえ。へエ…。

実は僕も崑崙茶の成分なんか知らないんですがね。イーエ。与太話なんかじゃありません。そのお茶に関するモノスゴイ話だけなら、ズット以前に何かの本で読んだ事があるんですが…：僕はモトから支那の事を研究するのが好きでね。支那は昔から実に不思議な国ですからね。僕の憧あこが憬れの国といつてもいい位なんです。今度の卒業論文にも支那の降神術に関する文献の事を書いておいたんですが…。

へエ。貴女あなたも支那のお話がお好きですか。御祖父おじいさんが漢学者だったから…：ああそうですね。それじゃ聞かして上げましょうとも。しかし、他の話なら兎とも角かく、崑崙茶の話だつたら、その御祖父様から、最早もはや、トツクの昔にお聞きになつてゐるかも知れませんがね。有名な話ですから…：へエ。全く御存じ無いんですか。妙ですね。それじゃ貴女が思い出されるかどうか話してみましよう。

しかしその支那人が眼を醒ましやしないでしょうか。へエ。明日の朝まで大丈夫。そうですね。それじゃお話ししましょう。まあ腰をかけて下さい。

貴女は四川省附近に、お茶で身代を無くした人間が多い事を御存じじゃ無いですか。へエ。それも御存じ無い。アノ附近に限られているのですからかなり有名な事実なんです。が……。

エエ、そうです。随分珍妙な話なんです。酒や女で身代限りをするのなら当り前ですが、お茶の道楽で身体を持ち崩して、破産するというのはのですから、馬鹿馬鹿しいのを通り越しているでしょう。トテモ支那でなくちや聞かれない話なんです。

御存じの通り支那人という奴は……聞えやしないでしょうね……チャンチャンという奴は、国家とか、社会とかいう観念となると全然無いと云つていい位に、個人主義的な動物ですが、その代りに私的の生活に関する、享樂手段の発達している事といったら、世界一と断言していいでしょう。着物でも、住居でも、料理でも、酒でも、香料でも……ね……御存じでしょう……エロの方面でも何でも、個人的な享樂機関と来たら、四千年の歴史を背景にしているだけに、スバラシイ尖端的などころまで発達を遂げているんです。

……ですからタツタ一つのお茶といったような問題に就いても、ドエライ研究が行き届

いているに違い無い事が、すぐに想像されるでしょう。

全くその通りなんです。しかも日本人なんかイクラ想像したって追付かない位、メチヤクチャな発達を遂げているのですが、その中でも亦、特別詭えの天下無敵の話つていうのが、この崑崙茶の一件なのです。

先ず、支那の奥地の四川省から雲南、貴州へかけて住んでいる大富豪の中で、お茶の風味がよくわかつて、茶器とか、茶室とかの趣味に凝り固まった人間が居るとしますかね。又は酒や、女や、阿片や、賭博なんかでも、あらゆる贅沢をし尽した道楽気の強い人間が、今度の一つ、お茶の趣味に深入りしてやろうと決心したとしますかね。いいですか。そこで何でも彼でも良いお茶良いお茶と金に飽かして、天井知らずに珍奇なお茶を手に入れては、それを自慢にして会合を催したり、ピクニックを試みたりして行くうちには、キツト崑崙茶を飲みたいというところまで、お茶熱が向上して来るのです。……むろん崑崙茶といったら、お茶仲間の評判の中心で、魅惑のエースと認められている事だし、お出入りのお茶屋が又チャンチャン一流の形容詞沢山で……崑崙茶の味を知らなければ共にお茶を談ずるに足らず……とか何とか云つて、口を極めて誘惑するんですから、下地のある連中はトテモたまりません。それでは一つ……といったような訳で、思い切り莫大

なお金をお茶屋に渡して、周旋を頼むことになるのです。

ところで崑崙茶を飲みに行く連中が、雲南、貴州、四川の各地方の都会に勢揃いをして出かけるのは、大抵正月過ぎから二月頃までの間だそうです。つまり崑崙山脈までの距離の遠し近しによつて、出発の早し遅しが決まるのだそうですが、その行列というのが又スバラシイ観物みものだそうです。

真ま先さきに黄色い旗を捧げた道案内者が、二人か三人馬に乗つて行くと、その後から二三匹宛すつ、馬の背中に結び付けられた猿が合計二三十匹、乃至ないし、四五十匹ぐらい行くのです。その間あいだ、間に緑色の半纏はんてんを着た茶摘男ちやつみとか、黄袍おうほうを纏まとうた茶博士ちやはかせとかいったような者が、二三十人入り交まじつて行くのですが、この猿が何の役に立つかは後で解ります。

それから些すくなくて三四台、多くて七八台から十台位の、美事に飾り立てた二頭立の馬車が行くので、その中に崑崙を飲みに行く富豪だの貴人だのが、めいめいに自慢の茶器を抱えて乗っている訳ですが、この時に限つて支那富豪に付き物のお妾めかけさんは、一人も行列の中に加わつておりません。全く男ばかりの行列なんだそうですが、その理由も追々おいおいとわかつて来るでしょう。

その後から金銀細工の鳳凰ほうおうや、蝶々なんぞの飾りを付けた二つの梅漬うめづけの甕かめを先に立

てて、小行李とか、大行李とかいった式の食料品や天幕テントなんぞを積んだ車が行く。その後から武器を持った馬賊みたような警固人が、堂々と騎馬隊を作って行くので、知らない者が見ると戦争だかお茶飲みだかチョット見当が付かない。ちやうど阿刺比亜アラビヤの沙漠を渡る隊商ですね。とにかくソソナ大騒ぎをやつて、新茶を飲みに行こうというんですから、支那人の享樂気分というものが、ドレ位徹底しているものだから、殆んど底ほとが知れないでしょう。

彼等はそれから嶮岨けんそな山道を越えたり、追剥おいはぎや猛獸の住む荒野原を横切ったり、零下何度の高原沙漠を、案内者の目見当一ツで渡つたりして、やがて崑崙山脈の奥の秘密境に在る、遊神湖ゆうしんこという湖の近くに到着するのです。そこいらは時候が遅いので、ちやうどその頃が春の初めくらいに暖かさだそうですが、その景色のよさといったら、実に何ともカンとも云えないそうですね。

詳しい事は判然わかりませんが、その遊神湖という湖の周囲には、歴史以前に崑崙国といつて、素敵に文化の進んだ一つの王国があつたそうです。ところが、その国民は極端に平和的な趣味を愛好した結果、崑崙茶の風味に耽溺たんできし過ぎたので、スツカリ氣力を喪つて野蠻人ばんじんに亡ぼされて終つたものだそうです。今でもその廢墟が処々の山蔭や、湖の底から

ニヨキニヨキと頭を出しているようですが、その周囲には天然の森が茂り、高山風の花鳥が展開して、珍しい鳥や見慣れぬ蝶が、長閑のどかに舞ったり歌ったりしてしている。底の底まで澄み切った青空と湖の間には、新鮮な太陽がキラリキラリと回転している……といったような絵にも筆にもつくせない光景が到る処に展開している。その中でも一番眺望のいい処に、各地方から集まった隊商たちは、先を争って天幕テントを張りまわすと、手に手にお香こうを焚たいたり、神符しんぷを焼いたりして崑崙山神の冥護めいごを祈ると同時に、盛大なお茶祭を催して、滅亡ほろびた崑崙王国の万霊を慰めるのだそうですが、これは要するに、迷信深い支那人の気休めでしかないと同時に、お茶の出来る間の退屈しの凌しのぎに過ぎないのでしよう。

一方に馬から離れた茶摘男たちは、一休みする間もなく各自めいめいに、長い長い綱を附けた猿を肩の上に乗せて、お茶摘みに出かけるのです。鬱うつ蒼そうたる森林地帯を通り抜けると、巖がん石せきがとして半天てんに聳そびゆる崑崙山脈に攀よじ登のぼって、お茶の樹を探しまわるのですが、崑崙山脈一帯に叢そう生せいするお茶の樹というのは、普通のお茶の樹と種類が違ちがうらしいのです。皆スバラシイ大木ばかりで、しかも、切つて落したような絶壁の中途に、岩の隙間を押分けるようにして生はえているのだそうですから、猿でも使われない事には、トテモ危険で近寄れない訳です。ところでその猿が又、実によく仕込んだもので、そんなお茶の大木の

梢こすえにホンノちよつぱり芽を出しかけている、新芽の中の新芽ばかりをチヨイチヨイと摘つみ取ると、見返りもせずに人間の手許へ帰つて来るのだそうです。

そこでソナナような冒險的な苦心をした十人か十四五人の茶摘男が、めいめいに一握りか二握りのお茶の新芽を手に入れると、大急ぎで天幕張りの露宮地に帰つて来ます。そうすると待ち構えていた茶博士……つまりお茶湯ちやのゆの先生たちですね。それが崑崙茶の新芽うやうやを恭しく受取つて、支那人一流の頗すこぶるつ付きの念入りな方法で、緑茶に製し上げるのです。それから附近の清冽な泉を銀の壺に掬くんで、崑崙こんろんと名づくる手捏りの七輪しちりんにかけて、生なまぬる温いお湯を湧かします。そうしてその白湯を凝りに凝つた茶碗に注いで、上から白紙の蓋をして、その上に、黒い針みたような崑崙の緑茶を一ひとつま抓みほど載せます。そうしてその白紙の蓋がホンノりと黄色く染まった頃を見計らつて、紙の上の茶粕ちりのを取除けると、天幕テの中に進み入つて、安楽椅子の上に身を横たえた富豪貴人たちの前に、三拝九拝して捧げ奉るのです。

富豪貴人たちはそこで、その茶器の蓋をした白紙を取除いて、生なまぬる温い湯をホンノ、チヨツピリ啜りすす込むのです。むろん一口味わつた時には、普通の白湯さゆと変りが無いそうですけれども、その白湯を嚙のみ下さないで、ジツと口に含んだままにしていると、いつとはな

しに崑崙茶の風味がわかつて来る。つまり紙の上に載っていた緑茶の精気が、紙を透した湯気に蒸されて、白湯の中に浸み込んでいるのだそうですが……。

……ドウデス。ステキな話でしょう。それはもう何とも彼ともいえない秘めやかな高貴な芳香が、菌の根を一本一本にめぐりめぐって、ほのかにほのかに呼吸されて来る。そのうちにアユル妄想や、雑念が水晶のように凝り沈み、神気が青空のように澄み渡って、いつ知らず聖賢の心境に暝合し、恍然として是非を忘れるというのです。その神々しい気持よさというものは、一度味つたらトテモトテモ忘れないものだそうです。

ええ。無論そうですね。夜になつても眠られないのは、わかり切った事ですが、しかし富豪たちはチツトも疲れを感じません。影のように附添って介抱する黄色い着物の茶博士たちが、入れ代り立ち代り捧げ持つて来る崑崙茶の靈効でもって、夜も昼も神仙とおなじ気持になり切っている。神凝り、鬼沈み、星斗と相語り、地形と相抱擁して倦むところを知らず。一杯をつくして日天子を迎え、二杯を啣んで月天子を顧みる。氣宇凜然として山河を凌銷し、万象瑩然として清爽際涯を知らずと書物には書いてあります。

けれどもその間は、お茶の味をよくするために食物を摂りません。ただ梅の実の塩漬と、

砂糖漬とを一粒宛すつ、日に三度だけ喰べるのですから、富豪たちの肉体が見る見る衰弱して行くのは云う迄もない事です。安楽椅子に伸びちやったまま、黄色い死灰しかいのような色いろつや沢ざになつて、眼ばかりキラキラ光らしている光景は、ちょうど木乃伊ミイラの陳列会みたいで、気味の悪いとも物凄すごいとも形容が出来ないそうです。

ところが、おしまいにはその眼の光りもドンヨリと消え失せてしまつて、何の事はないキョトンとした空からつぽの人形みたいな心理状態になる。身動きなんか無論出来ないのですから、お茶は介抱人に飲ましてもらつて。その時のお茶の味が又、特別においしいのだそうで、身体中からだがお茶の芳香に包まれてしまつたようなウツトリとした気持になるのだそうです。すが、やはり神経が弱り切つていゝせいでしようね。その代りに糞くそも小便も垂れ流しで、ことに心神しんしん消しょう耗もうの極、遺精を初める奴が十人が十人だそうです。そんなものは皆、茶博士たちが始末して遣るのだそうで、実に行届いたものだそうです。

こうして二三週間も経つうちに、最初は麓ふもとの近くに在つた新茶の芽が、だんだんと崑崙山脈の高い高い地域に移動して行きます。それに連れて採取が困難になつて来る訳で、やがて新茶が全く採れなくなつたとすると、茶摘男と茶博士が一緒になつて、その生きた死骸がいみたいに弱り切つている富豪貴人たちを、それぞれに馬車の中へ担かつぎ込んで、牛酪ぎゅうらく

や、骨^{こつかん}羹^{かん}なぞいう上等の滋養分を与えながら、来がけよりも一層ユツクリユツクリした速度で、故郷へ連れて帰るのです。つまり日中を避^よけて、朝の間^まと夕方だけ馬を歩かせるので、あんまり速く馬を歩かせたり、モウ夏になりかけている日光に当^あたり何^{なん}かすると、眼をまわしてヘタバル奴が出来かねないからだそうです。

ところで、コンナ風にしてヤツトの思いで、七八箇月ぶりに故郷に帰り着いても、まだ半死の重病人みたいになっている奴が居るそうですが、しかしどっちにしてもこの崑崙茶の味を占めた奴はモウ助からないそうです。完全なお茶の中毒患者になつているんですから、来年の正月過ぎになると、今一度飲みに行きたくて堪^たまらなくなる……尤^ももこれは無理もない話でしょう。支那人一流の毒々しいエ口と、バクチと、酒池肉林式の正月気分、ウンという程飽^{ほう}満^{まん}したアトの富豪連ですから、そうした脱俗的なピクニック気分を起すのは、生理上むしろ当然の要求かも知れませんかからね。

そこで又行く。その次の年も行く。度重なるに連れて、お茶仲間からは羨^{うらや}ましがられるばかりでなく、お茶の勲^{ナイト}爵^ト士としての無上の尊敬を受けるようになる。崑崙仙士とか道人とかいったような特別の称号なんかを奉られて、仙人扱いにされるのだそうですが、しかし、何しろその一回の旅行費だけでも一身代かかる上に、頭も身^{からだ}体も役に立たない廃人同

様になって、あらゆる方向から財産を消耗する事になるのですから、余程の大富豪で無い限り、四五遍も崑崙茶を飲みに行くうちには、財産をスツカラカンに耗つてしまうものだと思います。又、それ程左様にこの崑崙茶が、古今無双の、生命がけの魅力を持っているらしい事は、モウ大抵おわかりになったでしょう。

ドウデス、婦長さん、スバラシイ話でしょう。ヤンキー一流の贅沢だつて、ここまで徹底してはいないでしょう。ハハハ……。

ところがここに一つ困つた問題が残つて居るのです。それはその身代を耗つてしまった、中毒患者の崑崙仙士君です。むろん又と崑崙茶を飲みに行く資力なんか無いのですが、しかしその味だけはトコトンまで腹に沁み込んでいてトモトモ諦められない。そこで仕方なしに、せめてアノ神凝り、鬼沈んだスバラシイ高踏的な気分だけでも味わいたいものだといふので、古馴染の茶店から「茶精」というものを買つて飲むんです。これは今お話した富豪連が、崑崙山の麓で使い棄てた緑茶の出し殻から精製した白い粉末で、相当高価なものだそうですが、それでも我慢して、普通のお茶に交ぜて飲んでみると、芳香や風味は格別無い代りに、純粹のエキスですから神氣の冴える事は非常なものです。毎日毎夜打つ通しに眠れない。そうして、しまいには昼も夜もわからない、骨と皮ばかりの夢うつ

つみたいになつて死んで行く奴が多い。しかも支那の事ですから、阿片と同様に取締りが絶対不可能と来ている。中には崑崙茶の味なんか知らないまま、見様見真似に「茶精」の味ばかりに耽溺^{たんでき}して、アツタラ青春を萎縮させてしまう青年少女も居るといった調子ですが、今そこに寝ている支那留学生は、たしかにその一人に相違ないのです。僕がこの病院に入院して以来、注射を受けなければ絶対に眠れないようになったのは彼奴^{きやつ}のせいには違無いです。

……ね。婦長さん。ですから済みませんが僕の室^{へや}を換えて下さい。イエイエ。口実じゃ無いのです。僕はソナナ恐ろしいお茶の中毒患者になつて、青春を萎^{しぼ}ましてしまいたくないのです。どうぞどうぞ後生ですから……サ……早く……そいつが眼を醒まさないうちに……。

ナ……何ですつて……。支那の魔法ですつて……？……。

へエ……貴女がお祖父様^{じい}からお習いになつた支那の魔法の中に、飛去来術^{ひきよらいじゆつ}というのがある。へエ。それはドンナ魔法ですか。

イエエ。初めて聞いたんです。全く知らないんです。飛去来術なんて……へエ。その魔法を応用したら、僕の煩悶^{はんもん}なんか他愛なく解決されてしまう。ホントウですか……へエ。

コンナ密室でしか行えないから都合がいい。へエ。貴女なら嘘は仰おっしゃ言らないでしょう。教えて下さい。ヤツテ見て下さい。その飛去来術っていうのを……どうするのですか。

眼を閉じている……いいです。閉じています。……そうして一から十まで数える……支那の数え方で……ええ。知ってますとも。大きな声で……よろしい。承知しました。いいですか数えますよ。

……イイイ……。アルウ……。……サンン……。スウウ……。ウウウ……。リュウウ……。チイイ……。ペアア……。チュウウ……。シイイイツ……。……と……。

いいですか。眼を開けますよ。

……オヤア……。これあ不思議だ……。

留学生が居ない。寝台ごと消えて無くなりやがった。コンクリートの壁になってしまった……^{たしか}確かに壁だ。寝台一つしか這入らない狭い室へやになっている。……おかしいな……この間から僕はあの支那人のことばかり気にしていたんだが……変ですねえ。どうしたんですか婦長さん……。

……オヤツ……。婦長さんも居ない。

いつの間に出て行つたんだろう。寝台の下にも……居ない。イヨイヨ可笑おかしい。俺はサ

ツキから独言ひとりごとを云つていたのか知らん。チョツとこの薬を嘗なめて……みよう。

……苦くも何ともありやあしない。塩しよっぱい味がする……重曹の味だけだ。オカシイナ
……オカシイ……。

……アツハツハツハツハツ。やつと解つた。

これが飛去来術なんだ。今の間に室と薬がかわつたんだ。

……エライもんだなあ婦長さんの魔法は……まるで天勝てんかつみみたいだ。有難い有難い。お
蔭でこれから安心して眠れる。

……ああ驚いた……。

面白い国だなあ支那という国は……。

アツハツハツハツハツハツ……。

青空文庫情報

底本：「夢野久作全集⁸」ちくま文庫、筑摩書房

1992（平成4）年1月22日第1刷発行

底本の親本：「瓶詰地獄」春陽堂

1933（昭和8）年5月15日発行

入力：柴田卓治

校正：ちはる

2000年9月30日公開

2012年5月16日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

狂人は笑う

夢野久作

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>